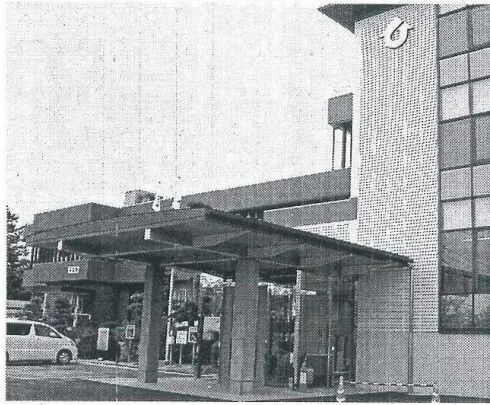


ガラスカレット舗装で雨水対策

東浦町は雨水対策の一環として、役場庁舎駐車場の一部にガラスカレット(リサイクルガラス造粒砂、ガラスの砂)を使用した舗装工事を行い、駐車場に雨水を一時的に貯留させる試みに取り組む。ガラスカレットは、総合廃棄物処理業のトーエイ(本社愛知県・東浦町・今津昭社長)が、廃ガラスを再利用するガラス再商品化施設で製造したものを利用する。雨水貯留など水害対策を目的とした公共工事にガラスカレットが用いられるのは、中部地区では初めて。



雨水対策に取り組む東浦町役場

(大府・小島圭司)

舗装工事は、路盤の痛みが進む役場庁舎正面の障害者用駐車場と、東側駐車場の計百八平方メートルの補修工事に合わせて試行的に実施する。

具体的には、駐車場を掘り下げ粒径五ミリ以内のガラスカレットを投入して圧縮し、六十センチの厚さで敷き詰める。その上から二十センチの厚みで再生砕石などを入れ、透水機能を持たせたアスファルト舗装を行う。

雨水はアスファルトを抜けてガラスカレットの粒の隙間に浸透して貯留

庁舎駐車場の一部に 東浦町が初の取り組み



トーエイが製造したガラスカレットのサンプル

のため、町民の住宅にも雨水貯留施設の設置に補助金を出すなど、雨水対策を進めており、今回の雨水を貯留する舗装工事は町自身が率先して水害対策に取り組む姿勢を示す意味もある。

また、町内で回収された使用済みの色付きガラス瓶や川砂などの代替品として道路部材や地盤改良材などに利用される。ガラスカレットは山砂や川砂などの代替品として道路部材や地盤改良材などに利用される。ガラスカレットは山砂や川砂などの代替品として道路部材や地盤改良材などに利用される。

される。そのまま土中に資源循環にもつながる。掘り下げた土にガラスカレットを投入して圧縮し、六十センチの厚さで敷き詰める。その上から二十センチの厚みで再生砕石などを入れ、透水機能を持たせたアスファルト舗装を行う。

同町は二〇〇〇年九月の東海豪雨で、大きな浸水被害に見舞われた。その際、役場の駐車場でも同様の被害が発生した。これを契機として、雨水対策を進めたいと考え、今年四月から本格稼働を始めた。

同町は二〇〇〇年九月の東海豪雨で、大きな浸水被害に見舞われた。その際、役場の駐車場でも同様の被害が発生した。これを契機として、雨水対策を進めたいと考え、今年四月から本格稼働を始めた。